

(生活総合)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり

～生活科・総合的な学習を通して～

大阪市長吉小学校 研究部

1. 研究主題設定の理由

昨年度の研究テーマは、【「主体的に学ぶ」児童の育成～生活科や総合的な時間の学習を通して～】とした。主な研究の内容として、①生活科・総合的な学習の時間の実効性のある全体計画と年間指導計画を見直し、更新した。②生活科・総合的な学習の時間を通してよりよく課題を解決し、自己の生き方を考えていくための資質・能力を育成してきた。③探究の過程において情報・情報技術を活用する研究を進めてきた。

本校の学校教育目標は、「地域の伝統をふまえ、規律ある学校生活を送り、互いに学び、高め合うことができる子どもの育成」であり、目指す子ども像は「自分で考え、自分から動く 子ども」「自分も他人も大切にする 子ども」「こつこつ継続して取り組む子ども」である。それらの実現には、探求的な見方や考え方を働かせて、長吉長原地域のひと、もの、ことに関する生活・総合的な学習の時間と他教科と関連させながらカリキュラムマネジメントを進め、よりよく課題解決をし、自己の生き方を考える資質・能力を育成していくことが必要である。

本年度の研究のテーマを、昨年度の研究を深めて、【「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業づくり ～生活科・総合的な学習を通して～】とし、主体的・対話的で深い学びをめざして、長吉小学校のグランドデザインをもとにした総合的な学習の時間の全体計画の更新していく。

全体計画の内容に沿って「探求的な学習過程」をより一層質的に高めていく授業改善を具体的に進めていかなければならない。本年度も引き続き、①探究的な学習や横断的・総合的な学習の時間を取り入れた育成する資質・能力を明確にした全体計画・指導内容について検討していく。②「探求的な学習過程」を取り入れた総合的な学習の時間のながよし学習スタンダードの内容を研究していく。

2. 研究の趣旨

(1)「探求的な学習過程」をとる総合的な学習の時間のながよし学習スタンダードの確立

ながよし学習スタンダードとは、子どもたちが「どのように学ぶか」に焦点を当てた授業を日々実践していくための授業改善の視点である。つまり、「主体的・対話的で深い学び」とは、「子ども」が課題を見つけ、「子ども」が自ら考え、「子ども」が表現をして伝え合う。教師はめざす具体的な「子どもの学びの姿」を捉えて、その姿を実現するための授業をデザインしていく。

(2)授業環境を整える

本校の【学校の教育目標】「地域の伝統を踏まえ、規律ある学校生活を送り、互いに学び合い、高め合うことができる子どもの育成」を実現していくためには、下記の授業環境を作整える。

- ・聴き合え、安心できる学級集団つくる。
- ・人と人をつなぐ言語の環境をつくる。
- ・学びの過程の見える化

(3)探究的な学習や横断的・総合的な学習の時間を取り入れ、育成する資質・能力を明確にした全体計画、指導内容の確立

- ・地域や学校、児童の特性を踏まえ、実効性のある全体計画と年間指導計画を見直す。
- ・地域を題材とした教材開発を進める（歴史遺産、地域の自然・農業・工業、地域施設や人との連携、150周年に向けた取組）
- ・生活科・総合的な学習の時間を通してどのような資質・能力を育成するのかということや、総

合的な学習の時間と人権教育や各教科等との関連を明らかにして、カリキュラムマネジメントを進める。

・探究の過程において情報・情報技術を活用する学習（教育 DX）の推進を行う。

3. 研究の概要

研究主題にせまるため、研究の視点を以下のように設定した。

視点① 「主体的・対話的で深い学び」の実現

- 学習活動を発展的に繰り返していく過程を重視し、課題設定と振り返りの充実を図る
「主体的な学び」 学習後に自らの学びの成果や過程を振り返ることを通して、次の学びに主体的に取り組む態度を育む学び。課題設定と振り返りが重要である。
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深める学びの充実を図る
「対話的な学び」 他者との協働や外界との相互作用を通じて、自らの考えを広げ深めるような学び。
異なる多様な他者と力を合わせて課題解決に向かう。
- 今まで以上に学習過程の質的向上を目指す
(各教科等で身に付けた資質・能力を何度も活用・発揮できるような 学習場面を生み出す。)
「深い学び」 各教科等で身に付けた「知識及び技能」「思考力、判断力、表現力等」は活用場面と結び付いて汎用的なものとし、多様な場面で使えるようになる

視点② 探求的な学習過程をより一層質的に高めていく授業改善

- (1) 「課題の設定」 体験活動を通して、課題を設定し課題意識を持つこと →【主体的な学び】
- (2) 「情報の収集」 必要な情報を取り出したり収集したりすること →【対話的な学び】
- (3) 「整理・分析」 収集した情報を整理したり分析したりして思考すること →【対話的な学び】
- (4) 「まとめ・表現」 気づきや発見、自分の考えなどをまとめ、判断し、適切に表現すること
→【深い学び・主体的な学び】
- (5) 「振り返り・課題設定の更新」 まとめて表現した成果について「何ができて、何ができなかったか」を振り返り、次に向けての新たな課題を生み出す。 →【深い学び・主体的な学び】

4. 研究の成果と今後の課題

(1) 研究の成果

・探求的な学習過程に「振り返り・課題設定の更新」を加えた5段階にしたことで、毎時間、毎単元の 学習後に振り返り、学習の軌跡がわかるようにしたことで、【深い学び】へとつながり、見通し・目標 を持って、新たな課題を生み出し、より主体的な学びにつながった。

・地域にある「もの」から、単元学習後には触れ合ってきた「ひと」「こと」にも広がりを見せ、町にでて、地域の人と出会うことを積み重ねることで、漠然としていた地域への思いが、言葉になり、形になって意識化されてきた。

(2) 今後の課題

・指導者が設定した課題や学習の流れに誘導してしまい、児童の「こんなことをやりたい」という気持ちを置き去りにしてしまったところがある。今後も児童の様子をしっかりと捉え分析し、児童が自分事として捉えられるような興味を引く教材や課題・展開の仕方を工夫していく。

・読解力や表現力を高めるなど、言語環境を整え、すべての教科、学校課題として取り組んでいく必要がある。